

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2020年5月14日
【四半期会計期間】	第64期第3四半期（自 2020年1月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	北川精機株式会社
【英訳名】	KITAGAWA SEIKI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 内田 雅敏
【本店の所在の場所】	広島県府中市鶉飼町800番地の8
【電話番号】	0847(40)1200(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員財務部長 西田 圭司
【最寄りの連絡場所】	広島県府中市鶉飼町800番地の8
【電話番号】	0847(40)1200(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員財務部長 西田 圭司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 第3四半期連結 累計期間	第64期 第3四半期連結 累計期間	第63期
会計期間	自2018年7月1日 至2019年3月31日	自2019年7月1日 至2020年3月31日	自2018年7月1日 至2019年6月30日
売上高 (千円)	3,463,560	2,652,726	5,408,635
経常利益 (千円)	326,337	355,312	554,676
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	230,609	182,886	160,238
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	252,275	187,013	241,475
純資産額 (千円)	2,129,062	1,875,198	2,118,262
総資産額 (千円)	7,555,675	6,492,121	7,079,159
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	30.15	23.91	20.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.3	28.9	23.8

回次	第63期 第3四半期連結 会計期間	第64期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年1月1日 至2019年3月31日	自2020年1月1日 至2020年3月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	12.07	20.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループは、「産業機械事業」及び「建材機械事業」の2事業を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間において、連結子会社であるキタガワエンジニアリング株式会社(建材機械事業)の全株式を同社へ譲渡しました。これに伴い同社及び同社の子会社である株式会社中国機設を連結から除外しております。

このため、第1四半期連結会計期間より「建材機械事業」を当社グループから除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、本四半期報告書に記載した財政状態及び経営成績の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染拡大による影響につきましては、海外への渡航制限や国内での移動制限の長期化による工期延期などが、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、前半では企業収益や雇用環境の改善に伴い緩やかな回復基調にありましたが、米中貿易摩擦の長期化に加え、新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に想定以上の影響を及ぼす状況となっております。

このような状況のもと当社グループは、2年目を迎えた中期経営計画「革新と創造への挑戦～独創性で輝き続けるKITAGAWAへ～」に基づき、引き続き3つの重点項目「独自コア技術の新分野・新市場への積極展開」「徹底した工程管理と原価削減による収益性・競争力・製品/サービス品質の向上」「創造性と自主性に溢れ、継続的な成長を支える活力ある強い組織作り」に取り組んでおります。

また、事業の選択と集中を図り、中長期にわたり業績の拡大を目指すうえで、成長事業を柱とした事業領域に資源を集中するため、連結子会社であるキタガワエンジニアリング株式会社（建材機械事業）の全株式を同社へ譲渡し、第1四半期連結会計期間より「建材機械事業」を当社グループから除外しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,652百万円（前年同四半期比23.4%減）、営業利益352百万円（前年同四半期比7.9%増）、経常利益355百万円（前年同四半期比8.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益182百万円（前年同四半期比20.7%減）となりました。

なお、当社グループは、主要製品が個別受注生産によるため、製品の受注金額・納期にバラツキがあり、大型案件になるほど売上までに相当期間を要し、月単位での売上高が大きく変動するという特徴があります。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

（産業機械事業）

銅張積層板・多層基板成形用のプレス装置、自動車部品製造ライン、樹脂成形用プレス装置など多様な受注を獲得する中で、工程管理や原価削減への取り組みの徹底を継続的に進めた結果、売上高2,477百万円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益325百万円（前年同四半期比28.5%増）となりました。

（その他）

油圧機器の売上が堅調に推移しており、売上高175百万円（前年同四半期比26.7%増）、営業利益20百万円（前年同四半期比15.3%増）となりました。

財政状態は、次のとおりであります。

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は6,492百万円となり、前連結会計年度末に比べて587百万円の減少となりました。増加の主なものは、仕掛品789百万円、減少の主なものは、受取手形及び売掛金915百万円、建物及び構築物（純額）118百万円、土地237百万円であります。

（負債）

負債合計は4,616百万円となり、前連結会計年度末に比べて343百万円の減少となりました。増加の主なものは、電子記録債務284百万円、前受金186百万円、減少の主なものは、支払手形及び買掛金131百万円、短期借入金250百万円、長期借入金161百万円であります。

（純資産）

純資産合計は1,875百万円となり、前連結会計年度末に比べて243百万円の減少となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益182百万円の計上と、非支配株主持分430百万円の減少によるものであります。

なお、当社は、第2四半期連結会計期間において欠損填補を行っております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（株主資本等関係）」をご覧ください。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たな発生はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、13百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年5月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,649,600	7,649,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式であり、単 元株式数は100株であります。
計	7,649,600	7,649,600	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年1月1日～ 2020年3月31日	-	7,649,600	-	300,000	-	100,000

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため記載することができないことから、直前の基準日(2019年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,800	-	権利内容に何ら限定のない、当社 における標準となる株式であり、 単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,647,000	76,470	同上
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	7,649,600	-	-
総株主の議決権	-	76,470	-

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
北川精機株式会社	広島県府中市鷺飼 町800-8	1,800	-	1,800	0.02
計	-	1,800	-	1,800	0.02

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年7月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仁智監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,771,747	1,758,828
受取手形及び売掛金	1,980,741	1,065,680
商品及び製品	6,187	1,119
仕掛品	827,388	1,616,535
原材料及び貯蔵品	137,963	98,878
その他	51,730	104,477
貸倒引当金	5,502	2,928
流動資産合計	4,770,255	4,642,591
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	576,681	458,526
土地	1,291,323	1,054,062
その他(純額)	206,945	172,310
有形固定資産合計	2,074,951	1,684,899
無形固定資産		
投資その他の資産	22,124	11,230
その他	222,643	163,190
貸倒引当金	10,815	9,790
投資その他の資産合計	211,828	153,400
固定資産合計	2,308,904	1,849,529
資産合計	7,079,159	6,492,121
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	830,940	699,830
電子記録債務	391,396	675,601
短期借入金	1,375,000	1,125,000
未払法人税等	76,785	6,465
前受金	595,487	781,766
賞与引当金	29,842	51,977
製品保証引当金	39,032	38,300
その他	330,853	240,720
流動負債合計	3,669,339	3,619,661
固定負債		
長期借入金	827,961	666,680
役員退職慰労引当金	62,347	1,050
退職給付に係る負債	388,412	320,776
その他	12,837	8,755
固定負債合計	1,291,557	997,261
負債合計	4,960,897	4,616,923

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,335,010	300,000
資本剰余金	1,340,745	660,987
利益剰余金	993,880	903,773
自己株式	1,114	1,114
株主資本合計	1,680,760	1,863,646
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,770	8,137
為替換算調整勘定	4,653	3,414
その他の包括利益累計額合計	7,424	11,551
非支配株主持分	430,077	-
純資産合計	2,118,262	1,875,198
負債純資産合計	7,079,159	6,492,121

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
売上高	3,463,560	2,652,726
売上原価	2,574,292	1,837,735
売上総利益	889,267	814,991
販売費及び一般管理費	562,872	462,930
営業利益	326,395	352,060
営業外収益		
受取利息	537	322
受取配当金	533	568
受取賃貸料	6,300	7,470
為替差益	-	7,970
補助金収入	20,164	15,247
その他	4,094	4,328
営業外収益合計	31,630	35,905
営業外費用		
支払利息	27,789	24,154
その他	3,898	8,499
営業外費用合計	31,687	32,654
経常利益	326,337	355,312
特別利益		
受取保険金	15,130	-
子会社株式売却益	-	18,657
特別利益合計	15,130	18,657
特別損失		
減損損失	-	136,235
災害による損失	22,319	-
特別損失合計	22,319	136,235
税金等調整前四半期純利益	319,148	237,735
法人税等	65,655	54,849
四半期純利益	253,492	182,886
非支配株主に帰属する四半期純利益	22,882	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	230,609	182,886

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2020年3月31日)
四半期純利益	253,492	182,886
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	911	5,366
為替換算調整勘定	304	1,239
その他の包括利益合計	1,216	4,127
四半期包括利益	252,275	187,013
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	229,393	187,013
非支配株主に係る四半期包括利益	22,882	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、キタガワエンジニアリング株式会社の全株式を同社へ譲渡したため、同社及び同社の子会社である株式会社中国機設を連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

税金費用の計算は、従来、見積実効税率により税金費用を算定しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、税金費用をより適切に四半期連結財務諸表に反映するため、年度決算と同様の方法による税金費用における簡便的な方法に変更しております。

なお、当該会計方針の変更による前第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

連結会計年度末日満期手形及び電子記録債務の会計処理については、前連結会計年度末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。前連結会計年度末日満期手形及び電子記録債務の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
受取手形	17,688千円	-千円
支払手形	114,923	-
電子記録債務	124,032	-

(四半期連結損益計算書関係)

1. 受取保険金

前第3四半期連結累計期間(自2018年7月1日至2019年3月31日)

「2018年9月台風21号」の影響により、神戸の梱包会社倉庫において発生した当社製品の浸水被害に対する損害保険金の受取額であります。

2. 災害による損失

前第3四半期連結累計期間(自2018年7月1日至2019年3月31日)

「2018年9月台風21号」の影響による当社製品の浸水被害及び復旧費等であります。

3. 減損損失

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは次の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類	減損損失
賃貸資産	広島県府中市	土地・建物等	136,235千円

当社グループは、原則として、事業用資産については事業部を基準としてグルーピングを行っており、賃貸資産と遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

連結子会社に賃貸していました賃貸資産は、個別決算において賃貸資産のグルーピングとして減損損失を過年度に計上しておりました。一方連結決算においては、事業用資産(建材機械事業)のグルーピングとして当該減損損失を連結上消去しておりました。

しかしながら、「第1 企業の概況 2 事業の内容」に記載のとおり「建材機械事業」を当社グループから除外したため、連結上消去しておりました当該減損損失を第1四半期連結会計期間において特別損失として計上しました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地及び建物は不動産鑑定評価額により評価し、土地及び建物以外については零として評価しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日至2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年7月1日至2020年3月31日)
減価償却費	58,269千円	69,079千円
のれんの償却額	1,295	-

(株主資本等関係)

株主資本の金額の著しい変動

2019年9月26日開催の定時株主総会の決議に基づき、2019年11月1日付けで減資の効力が発生し、当第3四半期連結累計期間において、資本金の額1,035,010千円及び資本準備金の額1,240,745千円をそれぞれ減少し、その他資本剰余金に振替えました。振替後のその他資本剰余金のうち1,714,767千円を取り崩し繰越利益剰余金に振替え、欠損填補を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間末において資本金が300,000千円、資本剰余金が660,987千円となっております。

なお、株主資本の合計金額への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年7月1日至2019年3月31日)

当第3四半期連結累計期間の(報告セグメントの変更等に関する事項)に記載のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間(自2019年7月1日至2020年3月31日)

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前連結会計年度まで「産業機械事業」及び「建材機械事業」の2事業を報告セグメントとしておりましたが、「第1 企業の概況 2 事業の内容」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「建材機械事業」を当社グループから除外しております。

このため、「産業機械事業」以外の事業は重要性が乏しいことから、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年7月1日 至2020年3月31日)
1株当たり四半期純利益	30円15銭	23円91銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	230,609	182,886
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	230,609	182,886
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,647	7,647

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年5月13日

北川精機株式会社
取締役会 御中

仁智監査法人

指定社員 公認会計士 戸谷 隆太郎 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 内藤 泰一 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている北川精機株式会社の2019年7月1日から2020年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年1月1日から2020年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年7月1日から2020年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、北川精機株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。